

図画工作・美術

Art and handicraft, Art

図画工作科・美術科は、表現及び鑑賞の具体的な活動を通して、生活や社会の中の形や色、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す教科です。

そのためには、表現及び鑑賞に関する資質能力を相互に関連させた学習の充実を図ることが大切です。具体的には、鑑賞において、自分なりの見方を大切にしながら主体的に造形的な美しさなどを感じ取ったり、作者の心情や表現の意図と工夫、美術の働きや美術文化について考えたりする学習を充実させ、表現の学習の中で積極的に生かせるようにしましょう。また、表現において、自らが強く表したいことを心の中に思い描き、発想し構想を練るなど、表したいことを追求して表す学習を充実させ、その体験を生かして作品などを鑑賞できるようにしましょう。

【図画工作科・美術科のページで使用されている用語解説】

「表したいこと」 「主題」	「感じ取ったこと」や「考えたこと」、「目的」や「条件」などを基に、「こんなことを表したい」と思い描いたことで、発想や構想の基盤となるもの。		
〔共通事項〕	表現及び鑑賞の活動において共通に必要な資質・能力。「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。本資料では、「共通に必要な資質・能力」であることを踏まえ、〔共通事項〕の語は示していないので、〔共通事項〕と学習活動の関わりを意識する。		
	校種	目標及び内容	育成を目指す 資質・能力
	小学校 (第5学年 及び 第6学年)	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと	知識 思考力、判断力、 表現力等

1-① 題材のつくり方

図画工作科・美術科は、第1章の2で示すBパターンの題材の構想が多くなります。題材の構想に当たっては、表現と鑑賞の関連を図ることが大切です。児童生徒が表現を見直したり、新たな思い付きを加えたりしながら、表したいことや主題などを更新したり、具体化したりできるようにすることが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○題材への関心を高め自分のイメージをもてるよう、体験を通して感じたことなどを話し合う活動を設定する。

例えば

- 人・ものを実際に見たり触れたりして話し合わせる。
- 写真や映像などを見て行事などについて話し合わせる。
- 材料や表現技法などを試して話し合わせる。
- 発想や構想に関する資質・能力とつながる視点で鑑賞して、話し合わせる。

○題材で追求する内容をつかめるよう、話し合ったことを基に課題を立てさせる。

○自分の感覚や行為を通して必要な知識や技能を実感を持って習得できるよう、材料や用具を体験し、教科書などの資料で確認する場を設定する。

○表したいことや主題を生み出せるよう、言葉や文章、図やスケッチなどで表す言語活動を設定する。

例えば

- 「絵や立体、工作に表す」「絵や彫刻などに表す」題材は、対象や事象から感じ取ったことや考えたことを表させる。
- 「デザインや工芸などに表す」題材は、目的や条件を踏まえて考えたことを表させる。

○効果的な構想ができるよう、資料を提示して構想する際の視点を意識させる。

例えば

- 「アイデアスケッチに表す際に、次の点を意識させる。
小学校 「表したいことを中心に表す」「中心と周りの様子」
中学校 「全体と部分の関係」「造形美の要素」 など

○試行錯誤しながらよりよい表し方を見付けられるよう、資料の提示、材料や表現方法を試す場の設定、材料や用具コーナーの設置などを行う。

P90 下段を参照

○視野を広げたりよりよい表し方に気付いたりできるよう、視点を明確にして相互に鑑賞し合う場を設定する。

例えば

- 「絵や立体、工作に表す」「絵や彫刻などに表す」題材では、表したいことや主題に照らして鑑賞させる。
- 「デザインや工芸などに表す」題材では、他者がどう捉えるかという客観的な視点から鑑賞させる。

○自己の変容を実感できるよう、作品や活動の様子を手掛かりにし、表現の過程で気付いたことやできるようになったことを視点として振り返る活動を設定する。

過程と基本的な学習活動

出
会
う

1 表現の見通しをもつ。

- ◇ 題材や材料、表現方法などとの出会い、イメージを膨らませる。
- ◇ 題材の課題を立てる。

【題材の課題】
 〈題材全体で学習する
 大まかな内容〉

試
す
・
広
げ
る

2 表したいことや主題を発想・構想する。

- ◇ 大まかな制作の順序や扱う材料や用具、表現方法を知る。
- ◇ 思いや願いを膨らませ、表したいことや主題を生み出す。
- ◇ 表したいことや主題を基に、構想を練る。
- ◇ 材料や用具、表現方法を習得する。

表
す

3 構想を基に制作する。

- ◇ 思いに応じて材料や用具、表現方法を選んだり組み合わせたりする。
- ◇ 材料や用具などの特性を生かし、表し方を工夫して制作する。
- ◇ 制作途中の作品を相互鑑賞し、よさなどを共有する。

振
り
返
る

4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。

- ◇ 作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。

◇ 題材全体の振り返り

絵や立体、工作に表す題材の例

「物語の世界を紙版画で表そう」 小学校第3学年 (全9時間予定)

【目標】

凹凸のある材料を生かして紙版画に表す活動を通して、物語を基に場面の様子について想像を膨らませ、主人公と周りの様子、材料の生かし方を工夫できるようにする。

1 表現の見通しをもつ。

第1時

- ◇「にじいろのさかな」を聞き、感じたことなどを話し合う。
 - ・挿絵を見せずに読み聞かせをし、興味をもったことや感じたことを話し合わせる。
- ◇凹凸のある材料を生かした紙版画で表すことを知り、題材の課題を立てる。
 - ・過去の紙版画の経験と、模様を使ってどんな表現ができるかを話し合わせ、題材の課題に結び付ける。

【題材の課題】でこぼこを生かして、物語の世界を紙版画で表そう！

2 表したいことを発想・構想する。

第2時

- ◇こすり出しの技法を用いて、様々な物の凹凸を紙に写し取り、凹凸によって模様が表せることを知る。
 - ・材料と対応する模様の資料を示し、こすり出しの技法によって、模様を集める活動を設定する。
- ◇再度、物語を聞き、ワークシートにイメージを整理し、物語を聞いて感じたことや考えたことを生かして簡単なスケッチに表す。



3 構想を基に製作する。

第3～6時

- ◇材料を組み合わせて生き物を表し、生き物を操作して構図を考え、版をつくる。
 - ・こすり出しの技法による模様を試したり、効果を確認したりするとよいことを助言する。
 - ・まず、生き物を表した版の部品を表させ、次に台紙の上で動かしながら画面構成を試す活動へと展開する。
 - ・集めた材料を自由に使えるようにした材料コーナー「どうぞボックス」を設置する。
- ◇版の完成後、模様が表れるよう刷り方を工夫して刷る。

第7・8時

4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。

- ◇裏に物語の文面を貼って紙芝居にし紹介し合う。
 - ・小グループで紙芝居として交代で紹介し、材料の生かし方や画面構成などについてよさや工夫したことを話し合わせる。

第9時

模様を生かして、にじうおが鱗を渡す場面の嬉しい感じを表せたよ。

絵や彫刻などに表す題材の例

「心を詩画で表現しよう」 中学校第1学年 (全7時間予定)

【目標】

自分との関わりで身の回りの事物を捉え、形や色彩などを用いて表現したり鑑賞したりする活動を通して、主題を生み出し画面構成や表し方を工夫して表現したりよさを感じ取ったりする。

1 表現の見通しをもつ。

第1時

- ◇星野富弘氏の作品を鑑賞し、作者の心情や意図、表現の工夫を話し合う。
 - ・モチーフや表し方、詩を手掛かりに話し合わせる。 ▶ P90 上段を参照
- ◇自分にとって大切な物を細部まで観察して詩画に表すことを知り、題材の課題を立てる。
 - ・教師が元気を取り戻せる物についてのエピソードを話し、生徒にとって大切な物、元気を与えてくれる物は何かを問い掛け、題材の制作へと方向付ける。

【題材の課題】モチーフをよく観察し、画面構成を工夫して、大切な思いを表現しよう。

2 表したいことを発想・構想する。

第2時

- ◇モチーフとして選んだ理由を発表し合い、主題を生み出す。
 - ・モチーフに選んだ理由を、主題としてワークシートに記述させる。
- ◇参考作品を見て、画面構成の効果を話し合う。
 - ・参考作品と配置を図式化した資料を数パターン提示し、モチーフ・詩・余白の取り入れ方とバランスについて問い掛ける。

3 構想を基に制作する。

第3時

- ◇見る、描くを繰り返して鉛筆でモチーフを描く。
- 第4・5時
- ◇アクリル絵の具の扱い方を工夫して着色する。
 - ・絵の具に混ぜる水の量を変えて彩色した参考作品を提示し、印象の違いを話し合わせ、水の溶き具合を考えさせる。
 - ・細部まで見て描いて主題を表現している制作途中の作品を鑑賞し、よさや工夫した表し方について話し合わせる。
 - ◇全体のバランスを考え、大きさや濃さを工夫して詩をかき足す。

第6時

4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。

- ◇鑑賞会で作品とともに主題を発表し合い、互いのよさについて付箋紙に書き、話し合う。
 - ・主題とモチーフの描き方や画面構成について意識したことを自己評価カードに記述させる。

第7時

傷を大切に感謝の思いが表現できたぞ。主題を意識して描くことが大切なんだな。

1-② 造形遊びをする題材の作り方

造形遊びは、第1章の2で示すBパターン題材の構想が多くなります。それは、表すことをあらかじめ決めるのではなく、材料や場所などに進んで働き掛け、自分の感覚や行為を通して思いのままに発想や構想を繰り返し、経験や技能などを総合的に活用してつくり、つくりかえ、つくることが重点となるからです。題材の構想に当たっては、材料や場所などの関わりを通して、自分で目的を見付けて発展させられるようにすることが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○対象と関わる中で造形的な活動を思い付き発展させていく造形遊びの特質を踏まえ、材料や場所を用意する。

- 例えば**
- 低学年 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に
 - 中学年 身近な材料や場所などを基に
 - 高学年 材料や場所、空間などの特徴を基に

◆材料を用意する際には、活動との関係に留意する。

- 例えば**
- 木や石など、形を変えにくい材料を用いると、積む、並べるなどの組み合わせによる活動に発展する傾向にある。
 - 粘土や紙など、形を変えやすい材料を用いると、変形や組み合わせによる活動に発展する傾向にある。
 - 発想を広げるために、材料の種類や量を豊富に用意する。
 - 発想を深めるために、材料の種類や量を絞って用意する。

◆場所を用意する際には、次の点に留意する。

- 「手や体全体を働かせて活動できる」
- 「友達の活動が自然に目に入る」
- 「光や風、広さなど、造形的な活動を引き出す特徴をもっている」(中・高学年)

○材料などへの関心を高め、活動を思い付いたり考えたりできるよう、材料と向き合う時間を確保し、関わりをイメージすることへ方向付ける投げ掛けを行う。

- 例えば**
- 「～でどんなことができるかな？」
 - 「～と仲良しになろう」

※与えた情報によって児童が活動を思い付くことを阻害することがある。与える情報を十分吟味する。

○つくり、つくりかえながら自らの表現を追求できるよう、材料や用具と関わる時間を十分確保する。

○多様な表現方法に気付けるよう、互いの表現を見合い、気付いたことや考えたことを交流する場面を設定する。

○自他の表現のよさを味わい見方や感じ方を広げられるよう、材料などの変化や見付けた形や色などを視点として、互いの表現を見合わせ活動を振り返らせる。

- 例えば**
- 表現した場や空間を授業後に見直す
 - 写真で記録して掲示する など

過程と基本的な学習活動

1 材料や場所と出会い、活動の見通しをもつ。

- ◇材料などと出会い、その場所や空間でどんなことができるかを想像する。
- ◇題材の課題を立てる。

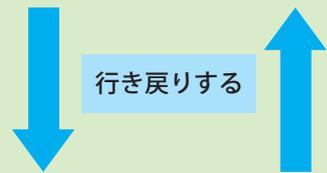
【題材の課題】
 〈題材全体で学習する
 大まかな内容〉

出
会
う

2 材料や用具と関わり合いながら、つくり、つくりかえ、つくることを繰り返す。

- ◇手や体全体の感覚を働かせ、楽しさを味わいながら、思い付いたことを試す。

つ
く
る



- ◇表現を見合ったり感想を交流したりする。

3 表現活動を振り返る。

- ◇加工した材料やつくりかえた場所を見合う。

振
り
返
る

◇題材全体の振り返り

造形遊びをする題材の例

「むすんで 広げて」(全2時間予定) 小学校第3学年

【目標】 毛糸をつなげ結ぶ造形活動を通して、手や体全体を十分に働かせ、思い付いたことを工夫してつくり出せるようにする。

本題材は、様々な色、長さの毛糸を自由に使い、図工室全体でできることに思いのままに取り組む学習です。活動を通して、場所の変化を楽しみます。

1 材料や場所と出会い、活動の見通しをもつ。

- ・広い場所を準備し、毛糸をつないだり結んだりするためのロープを手の届く高さに張り巡らす。
- ・様々な長さの様々な色の毛糸を複数準備する。



〈広い場所とロープの設置〉



〈様々な色、長さの毛糸〉

◇毛糸を結び付けて図工室でできることを考え取り組むことを知り、題材の課題を立てる。

- ・ロープを張り巡らせる様子を演示しながら、毛糸を結び付けてどんなことができるか投げ掛ける。



〈活動をイメージさせる導入〉

毛糸の世界を広げよう！
毛糸を結び付けて、どんなことができるかな？



どこに結ぼうかな。どんな感じになるかな。

【題材の課題】 毛糸をむすびつけ、友だちと毛糸の世界を広げよう！

2 材料や用具と関わり合いながら、つくり、つくりかえ、つくることを繰り返す。

◇思いのままに毛糸を結び付けて表す。

- ・室内を移動しながら思いのままに結び付ける活動を意図して、はじめに長い毛糸を使用させる。
- ・一人一人の思い付いた活動に取り組めるように、様々な毛糸を自由に選べるようにする。



〈体全体で思いのままに活動〉

○「ここ見て！カード」を取り付けさせ、いろいろな向きから鑑賞活動を行わせる。



「ここ見て！カード」



鑑賞活動

○思いに寄り添い、共感的な態度で個別に声掛けをする。

P90 中段を参照

広がり・深まり



〈束ねて場所づくり〉



〈丸めて吊るす〉



〈壁と毛糸で場所づくり〉

3 表現活動を振り返る。

◇様々な視点から自他の表現を見合い、活動を振り返る。

- ・寝転んだり立ち上がったたり少し離れたりしながら鑑賞するよう投げ掛ける。

普通の毛糸やボワボワの毛糸を組み合わせたら、吊るした毛糸がミノムシみたいになったよ。

立って見ると、毛糸がきれいに広がっていてすてきだね。



〈楽しさを分かち合う〉

1-③ 鑑賞題材の作り方

鑑賞は、第1章の2で示すBパターンの題材の構想が多くなります。単に知識や作品の定まった価値を学ぶのではなく、自分の見方や感じ方を大切に、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくりだす活動です。表現と鑑賞を関連させた題材を基本としながらも、独立して扱うこともできます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○鑑賞対象との距離感を縮め関心を高められるよう、身近な対象を取り上げたり、見せ方を工夫したりする。

○鑑賞対象について直感的に感じ取ったことを意識できるよう、印象や疑問などを伝え合う活動を設定する。

◆児童生徒の発言などを基に形や色などの造形的な視点を意識させる。

例えば

- 「形」「描かれているもの」「色彩」「材料」「光」「表現方法」など（造形の要素）
- 「動き」「画面構成の効果」「色彩から受ける感じ」「表現方法の特徴」など（受ける感じ、働き、特徴）

○印象や疑問などを基に題材で追求する内容をつかめるよう、比較対象となる作品を提示したり、時代的背景、材料や表現技法、作者の人となりなどの情報を示したりして問いを焦点化し、題材の課題として整理する。

例えば

なぜ北斎は富士山を波の向こうに小さく描いたのか、
（印象や疑問、気付きなどを基に焦点化した問い）
画面構成の効果を考えながら鑑賞し、作品を味わおう
（造形的な視点）

○鑑賞対象と向き合い自分の考えをしっかりとめるよう、鑑賞する際の視点を確認し、鑑賞対象をじっくりと見る時間を確保するとともに、考えたこと、感じたことを自分の言葉で書き留める活動を設定する。

○見方や感じ方を広げたり深めたりすることに必要な場合は、書籍やインターネットを活用して情報を収集したり取材したり実際に追体験したりする場を設ける。

○見方や感じ方を深められるよう、教材などを工夫して思考を可視化させたり多様な考えを引き出したりする。

例えば

- 付箋紙によるKJ法やウェビングなどの思考ツール
- 造形的な視点についての意識化を図る教材

○変化した自分の考えや価値観を実感できるよう、自己の内面を見つめるとともに、ワークシートなどに自分の振り返りを言葉でまとめる活動を設定する。

例えば

- 集団・自己の変容（見方や感じ方）
- 今後の創造活動で生かしていくこと
- 日常生活との関わり

過程と基本的な学習活動

1 鑑賞対象と出会う。

- ◇ 全体の感じを捉える。
- ◇ 印象、疑問、気付きなどを発表し合う。
- ◇ 対象の基本的な情報を得る。
- ◇ 課題を立てる。

出会う

鑑賞対象の提示例

図版などを拡大して黒板などに掲示すると、遠くから全体の印象を捉えることにつながる。

【題材の課題】
〈題材全体で学習する
大まかな内容〉

2 細かいところ、気になるところに着目して鑑賞する。

- ◇ 鑑賞の視点に沿って鑑賞し、鑑賞対象に対する自分の考えをもつ。

つくる

鑑賞対象の提示例

各自に図版を配付したり教科書などの図版を活用したりすると、細かいところをじっくり見ることにつながる。

広げる・深める

3 考えを交流し、見方や感じ方を広げたり、深めたりする。

- ◇ 鑑賞の視点を基に、感じ取ったことや考えたことを交流する。

振り返る

4 鑑賞活動を振り返る。

- ◇ 自身の見方や感じ方の変化や今後の生かし方を言語化する。

◇ 題材全体の振り返り

鑑賞題材の例

「富士の大きさ位置は、なぜこうなの？」(全1時間予定) 中学校第2学年

【目標】 構図の視点から「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を鑑賞する活動を通して、作者の意図や表現の工夫を感じ取れるようにする。

1 鑑賞対象と出会う。

◇題名を知り、富士山と波を削除した図版を見て、作品を想像する。

- ・ 作品名にある「富嶽」が富士山の意味であること、作品の一部を削除したことを伝え、「自分が作者なら、どこに富士山と波を描くか」と問い掛ける。
- ・ 様々な大きさの波と富士山の部品を、作品の背景を表した台紙の上に並べて配置を考えさせる。

◇作品を見て、構図についての問いをもち、題材の課題を立てる。

- ・ 生徒が想像した作品と意図を紹介させる。
- ・ 作品の拡大図版を板書に示し、富士山と波の大きさや配置を確認させ、想像した作品と比較して感じたことを発表させる。



大きさや位置によってずいぶん見え方が変わるな。作者は、なぜ主役のはずの富士山を波の向こうに小さく描いたのかな。



【題材の課題】 なぜ北斎は富士山を波の向こうに小さく描いたのか、画面構成の効果を考えながら鑑賞し、作品を味わおう。

2 細かいところ、気になるところに着目して鑑賞する。

◇作品の知識を得たり、「富嶽三十六景」の他の作品と比較したりしながら作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫について自分の考えを記述する。

- ・ A4版のカラー図版を2人に1枚配付し、自然発生的な対話と細部への鑑賞を促進する。
- ・ 作者や制作年代、「富嶽三十六景」についての知識を示したプリントを配付する。
- ・ 波と富士山の部品を台紙の上に作品と同じ構図で並べさせ、それぞれの部品の大きさや配置を変えて、見え方の違いを確かめさせる。



他の作品も、富士山以外の風景や人が描かれているね。



風景の向こうに富士山が描かれている作品が多いね。

波と富士山の位置がぴったり。小さくてもどっしりとした富士山に自然に目がいくね。



富士山の雄大さを表したかったんだね。



3 考えを交流し、見方や感じ方を広げたり、深めたりする。

◇ワークシートに記述した考えを発表し合い、北斎の意図や構図の工夫を話し合う。

- ・ ワークシートの記述内容を見取っておき、意図的な指名によって話し合いを深めさせる。



波が覆いかぶさりそうになっても、動かない富士山の雄大さを表したと思います。



船と人のことを考えた、〇〇さんの意見を聞いてみよう。



富士山の前に描いた船が気になります。自然におろおろする人を表したと思います。



最初は大波が目に入り、次におろおろする人に気がきます。そして、よく見ると富士山があったという驚き。構図と対比で富士山の雄大さを表したと思います。

4 鑑賞活動を振り返る。

◇見方や感じ方の変化を見つめ、ワークシートに記述する。

- ・ 作品を想像した際に考えたことを想起させ、鑑賞して考えたこととの違いに気付かせる。

富士山中心の絵を想像したけど、構図と対比を視点に見て作品のすごさに気付けたよ。

2 単位時間のつくり方（「表す」過程）【例】

ここでは、表現領域の学習で多くの時間を費やす「つくる・表す」過程の単位時間の学習のポイントを示します。主体的・対話的で深い学びを実現するためには、めあての設定によって目的意識をもたせること、表現活動の中で自己決定を繰り返させること、表現する際に鑑賞の能力を働かせること、めあてに対する振り返りによって学習の意義を自覚させることが大切です。

【指導のポイント】

【前時までの学習の振り返りから本時の学習内容につなげる】

○前時にもった課題の解決への意欲を高め、本時に取り組むことをイメージできるよう、画像や動画、作品などの視覚的に捉えられる資料を提示したり、前時に記述した振り返りを確認させたりする。

【児童生徒の思いを基にめあてを設定する】

○学習の振り返りを基に、児童生徒とのやりとりを通して、めあてを設定する。
○個々にめあてを設定させる際には、「どの部分をどのように工夫するか」など、視点を示し具体化を図る。

【めあての追求の手掛かりをつかませる】

○表現活動に取り組む際に意識する点を具体的につかめるよう、画像や図、作品の資料、表し方の演示や動画などによって、めあての追求の手掛かりを視覚的に示し、受ける感じや特徴、効果などを話し合わせる。

【児童生徒の自己決定を後押しする個別指導を行う】

○全体を見て、個々の学習状況を把握する。（おおむね満足できる状況になっているか判断）
○形や色などを意識して試行錯誤する中で、自己決定できるよう、必要に応じて対話による支援を行う。 **P90 中段を参照**

【全体でよさなどを共有したり個別の交流を促したりする】

○視野を広げたり考えを深めたりできるよう、全体でよさなどを共有する場を設けたり、個別に友達と交流できるような声掛けをしたりする。
※表現活動の時間を過度に削ったり、思考を分断したりしないよう留意する。

【作品や活動の様子などから具体的に振り返らせる】

○自身の取組のよさや頑張り、自己の変容などについて実感できるよう、作品や活動の様子などを手掛かりに、表現の過程に目を向けさせる。

例えば

- ・表現を工夫したり、思いを十分表現したりしている児童生徒の作品や活動を取り上げて紹介する。
- ・自分の表現途中の作品や画像や動画を視聴させる。
- ・自己評価をさせる。 など

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時までの学習を振り返る場を設定する。
- 児童生徒の思いを受け止め、めあてとして設定する。

【めあて】

- 本時のめあてを踏まえて個々のめあてを立てるよう促す。
- 本時の学習の流れや時間の配分、使用する材料や用具、安全の約束を確認させる。

2 表現活動に取り組む。

- 制作の手順や追求の手掛かりなどをつかむ場を設定する。
- 自己決定に結び付ける個別指導を行う。
- 表現活動を互いに見合う場を設定する。

3 本時の振り返りをする。

- 本時の表現活動を振り返り、全体や自己の変容を実感する場を設定する。

【単位時間の振り返り】

- 次時に追求する課題、必要な用具などを意識させ、見通しをもたせる。
- 分担して、片付けをさせる。

単位時間の学習の例

「水引で結んで広がる世界」 中学校第2学年

【ねらい】 変化と統一による調和のある美しさを意識した水引の制作を通して、紐の結び方や編み方、折り方、曲げ方などの表し方を工夫できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

活動 生徒のアイデアスケッチを数例見て、前時の学習で主題や構想を明らかにしたことを想起する。

- 各自のアイデアスケッチを見て、主題や構想について隣同士で紹介し合わせる。

活動 紐の本数や色の組合せ、表し方の工夫により、調和のとれた美しい水引を制作することを確認し、めあてをつかむ。

- 構想段階で試したときと制作との違いを確認し、めあてをつかませる。そして、各自に気を付けたいことを考えさせ、個々のめあてをつかませる。



〈全体でアイデアスケッチを確認〉



紐の組合せで、ずいぶん印象が変わるな。紐の折り方や曲げ方によって、美しい水引になるな。綺麗な水引に仕上げたいな。

【めあて】 変化と統一の調和を意識し、紐の本数や組合せ、表し方を工夫して制作しよう。

2 表現活動に取り組む。

活動 資料などを見て、追求の手掛かりをつかむ。

- 以下の通り追求の手掛かりをつかませる。
 - 変形の際の視点を確認する。
 - 類似色相と対称色相による組合せで結んだ水引の写真を提示し、受ける感じの違いについて話し合わせる。
 - 美しいたゆませ方を演示する。



〈変形の際の視点 (部分)〉

活動 アイデアスケッチを基に、紐の数や色の組合せ、表し方を工夫して水引を制作する。

- 紐の本数や色の組合せ、表し方の工夫の視点から個別指導を行い、自己決定を促す。
- 構想に基づき、水引の紐やはさみ、セロハンテープなどを自由に選べるよう、材料・用具コーナーを設置する。

P90 下段を参照



〈美しいたゆませ方で演示した手順〉



〈材料・用具コーナー〉



〈バランスを取り変形〉



〈色の組合せを試す生徒〉

類似色相でまとまりのある感じにしたよ。赤やピンクで華やかな感じになりそう。



バランスを慎重に整えたら、アイデアスケッチよりきれいになったな。



3 本時のまとめと振り返りをする。

活動 「変化と統一の調和」の視点から、紐の本数や色の組合せ、表し方がどうだったかを自己評価する。

- めあてに照らしてよさが表れる作品を紹介し、振り返りの視点を確認した上で、振り返りカードに自己評価をさせる。

【振り返り】 金と銀、緑、赤の組合せを試してよかった。形のバランスの取り方も分かったぞ。



3 学習過程と教科書との関連

<教科書>

図画工作科・美術科の教科書は、題材を見開きで示していることが多く、作品例とともに、材料や用具についての説明、鑑賞の資料、色彩や技法に関する資料などを掲載しています。教科書は、授業を進める上で中心的な教材であることを踏まえ、題材及び単位時間のねらいや学習内容に応じて、効果的に活用しましょう。

題材に活用

教科書に掲載されている題材を計画に位置付ける。

児童生徒の実態や地域の特色を踏まえ、掲載されている題材例にアレンジを加えて計画に位置付ける。

資料として活用

掲載されている作品を表現際の参考作品や、鑑賞作品として活用する。

材料や用具、技法などに関する記述や図等を資料として活用する。



教科書会社によって様々ですが、題材を通して身に付けさせたい資質・能力との関連で、「学習のめあて」「ふりかえってみよう」なども掲載されています。授業構想の参考にしましょう。

<その他の資料等>

美術の学習を充実させるために、様々な「表現や鑑賞に関する資料集」も出版されています。技法の習得や作品の鑑賞など、必要に応じて活用しましょう。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
形や色（色彩）などの変化を見分けたり、微妙な違いを感じ取ったりすることが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 児童（生徒）の経験や実態を考慮して、形や色（色彩）などの特徴が分かりやすいものを個別に例示する。 <p>例えば、粘土の形を変えて思い付いた形をつくる題材において、ひも状に伸ばしてつくった形と、粘土べらで長く削りとった形を実際に示して、違いに気付かせ、どのようなところに生かせるか考えさせるのもよいでしょう。</p> <p>例えば、鑑賞で、カラー図版の他にモノクロ図版を提示して比較させると、色（色彩）のもつ効果に気付きやすくなります。</p> 
自分に合った材料や用具を選ぶことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 多様な材料や用具を用意して選択の幅を広げる。逆に種類や数を絞って選択しやすくする。 <p>選択肢が少なく選べない場合もあるし、多過ぎて混乱してしまう場合もあります。その児童（生徒）に応じた配慮が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの造形の要素の特徴や働きが分かりやすいものを例示して、一人一人が自分に合ったものを選ぶようにする。（美術科） <p>画一的に教え込むのではなく、実際に材料や用具に触れさせる中で、本人と丁寧に対話しながら、自ら選択できるようにすることが大切です。</p>  
自分のイメージをもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 児童（生徒）とのやりとりを通して、感じたことや考えたことを言葉として引き出す場を設定することで、自分のイメージをもつことのきっかけを得られるようにする。 <p style="text-align: right;">P90 中段を参照</p>

5 情報活用能力の育成

図画工作科・美術科における情報とは…表現や鑑賞に関連する材料、場所、作品等

基本的な操作〈例〉

○情報を収集する学習

⇒作品や作品に関する情報をインターネットから検索・閲覧

○情報を整理・比較する学習

⇒活動や作品を記録したり、表現に活用したりするためのデジタルカメラやコンピュータなどの操作

⇒形の自由な変形、配置換え、色彩換えなどを試す活動における画像編集ソフトの操作

〈例〉

- ・材料（形、色、重さなど） ・技法
- ・場所（広さ、明るさ、天候など）
- ・作品（よさ、工夫、主題など）
- ・鑑賞カード など

情報の収集

【どのように】

- ・材料集め ・導入時の活動（材料、技法、場所、参考作品との出会い） ・教師の説明
- ・友達との交流 ・相互鑑賞
- ・地域人材との交流（作品鑑賞や説明） など

「情報」との出会いが大切です。児童生徒が、「いいこと考えた。やってみよう。」と思えるような出会いを工夫しましょう。



問題解決における情報活用

情報の整理・比較

【どのように】

- ・イメージしたことをメモやスケッチする
- ・「表したいこと」、「主題」を生み出す
- ・試しの活動 など

情報の発信・伝達

【だれに、どこに】

- ・友達、教師
- ・家族
- ・関わっていただいた地域人材
- ・地域施設やイベント
- ・社会一般の不特定な人々 など

【どのように】

- ・言葉で伝える
- ・相互鑑賞会
- ・校内展示
- ・地域の作品展
- ・Web など

情報モラル・セキュリティ

思いの込められた作品を大切にすることを学びましょう。また、発信の段階に応じて、著作権や肖像権に触れ、作者の権利を尊重し侵害しないことや写真等で人物を撮影して作品化するには、相手の理解が必要なことなどを指導しましょう。

6 地域の人材や物的資源の活用

各地域には、粘土、砂、石、和紙、木、竹などの様々な材料があります。それら地域の材料の特性を生かした表現方法や題材を工夫しましょう。その際、地域の伝統的な工芸、民芸など、地域の材料とそれに伴う表現技術、経験豊かな人材なども併せて活用することなどが考えられます。そして、美術が生活に根ざし、伝統や文化の礎となっていることを、体験を通して理解できるようにすることも大切です。



〈土を集めて粘土あそび〉

地域の材料を活用する

家庭や地域の協力を得て、地域特有の材料、地域で手に入る材料などを積極的に活用しましょう。

地域の施設などに展示する

地域の方に見てもらうことで、表現の確かさが明確になり、活動への意欲が高まります。社会の中で美術が果たす役割を理解することにもつながります。

地域の人材を活用する

経験豊かな人材として、地域の伝統工芸家や作家、職人などを活用しましょう。

県生涯学習センターの「まなびねっとぐんま」で人材を検索できます。

・県生涯学習センター「まなびねっとぐんま」
<http://www.manabi.pref.gunma.jp/>
 ☎ 027(224)5700

美術館などを活用する

美術館は、郷土の作家の作品に触れる貴重な場です。展示室を使った鑑賞や出張授業などのプログラムがあります。

- ・県立近代美術館
 ☎ 027(346)5560
- ・県立館林美術館
 ☎ 0276(72)8188



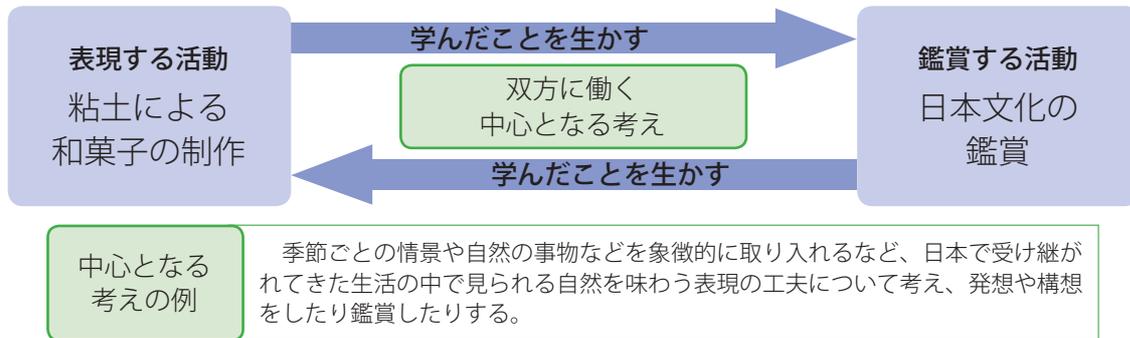
〈美術館で対話しながら鑑賞〉

【参考】

■ 表現と鑑賞を関連させた授業づくりをしましょう！

発想や構想する際と鑑賞する際の双方に働く中心となる考えを明確にして、表現と鑑賞の学習を関連させましょう。資質・能力は相互に関連して働き、共に高まっていきます。

例えば・・・



■ 個別指導を通して自己決定を促しましょう！

児童生徒一人一人の「表したいこと」や「主題」を捉え、自己決定を促す個別指導を行いましょう。

例えば・・・



■ 自然に活動に没頭できる場づくりを工夫しましょう！

児童生徒は、活動の中で目に入るもの、出会うものなどに影響を受けながら、学習を進めています。児童生徒の豊かな活動を引き出す場づくりを心掛けましょう。



〈材料・用具コーナー〉

材料や用具を選びながら自然な交流が生まれます。



〈展示コーナー〉

掲示している間に自然に他の作品を鑑賞します。



〈材料や表し方などの試しの場〉

表現の過程で自由に試せるようにしておきます。